

<第2議案>

2005年度収支決算（案）

8～9ページの2005年度収支計算書（自2005年1月1日 至2005年12月31日）と貸借対照表（2005年12月31日現在）をもって、2005年度収支決算とする。

<説明>

2005年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 全体として

予算では約221万円の収支赤字を見込んでいたが、決算では約340万円の収支赤字となり、大幅な赤字増となった。実際には、この数字は、さらに大幅な赤字が予想されたために、次年度への悪影響を緩和するため、理事の緊急拠出金によって、多少とも事態の好転を図った結果の数字である。

ピースデポ財政の実態を見やすくするために、将来計画のために保有している1000万円の大口寄付は別枠で示した。また、2005年に発生した2005年度宜野湾市調査委託契約（05年5月～06年3月）にかかわる支出（約130万円）も、2006年4月に入金が約束された金額の先行支出であるため、分かりやすくするために別枠で示した。これらを勘案すると、2006年度予算への繰越金は、貸借対照表上では約998万円であるが、実質的には表の決算欄の「次年度繰越収支差額」に計上されている約127万円である。

2. 会費収入について

ネット会員数の20名増を見込んで予算を組み、結果として会員数が減ったにもかかわらず会費収入が、ほぼ100%を達成した。その理由は、05年より前の未納会費の回収努力が一定の成果をあげたからである。

3. 事業収入・支出について

「核兵器・核実験モニター」の購読費が、大幅に予算を下回っている。購読者の減少問題は、会員の伸び悩みの問題と同じ問題として、継続して対策が必要である。その他に、今回は目標の立て方にも問題点があったと指摘できる。

注目のイアブックは、予算では出版費用（販売発送費、製作時の臨時人件費を含まない）を差し引いた実質収入を約138万円と見込んでいたが、実績は約7万円の実質収入に過ぎなかった。ただし、06年に販売する道が残っておりそこでの売り上げは丸々実質収入に貢献する。

当初予算化していなかった事業として、出版の「その他」にジャバラ冊子の収支（収入約 205 万円、支出約 166 万円）があり、事業収入に大きく貢献した。日本生活協同組合連合会との共同事業であった。

特定目的寄付金を得て作成した「核軍縮：日本の成績表」は、約 10 万円の収支黒字となった。

4. 管理費について

予算は常勤スタッフ 3 人で組んでいたが、4 月から 1 人が嘱託身分に変わったために、「給与・手当」が対予算比 91 万円の減となった。